

数学 コース2 (上級コース)

I

問1 次の2つの条件を満たす2次関数を求めよう:

- (i)  $x=1$  と  $x=5$  で同じ値をとる。
- (ii)  $-2 \leq x \leq 6$  における最大値は 30 であり、最小値は  $-20$  である。

求める2次関数を

$$y = ax^2 + bx + c$$

とおくと、条件 (i) より

$$b = -\boxed{A}a$$

を得る。さらに、この2次関数は条件 (ii) を満たすから

$$\begin{cases} -\boxed{B}a + c = -20 \\ \boxed{CD}a + c = 30 \end{cases}$$

または

$$\begin{cases} -\boxed{B}a + c = 30 \\ \boxed{CD}a + c = -20 \end{cases}$$

を得る。したがって、求める2次関数は

$$y = \boxed{F}x^2 - \boxed{FG}x - \boxed{H}$$

と

$$y = \boxed{I}x^2 - \boxed{JK}x + \boxed{LM}$$

である。

問2  $P = 6ab + 9a - 4b - 6$  とする。

(1)  $P$  は

$$P = (\boxed{N}a - \boxed{O})(\boxed{P} + \boxed{Q})$$

と因数分解できる。

(2)  $a = \frac{\sqrt{6}}{3}$ ,  $P = \sqrt{3} - \sqrt{2}$  のとき,  $b = \frac{\sqrt{\boxed{R} - \boxed{S}}}{\boxed{T}}$  である。

(3)  $P = 17$  を満たす整数  $a, b$  の組は

$$(a, b) = (\boxed{U}, \boxed{V}), (a, b) = (\boxed{WX}, \boxed{YZ})$$

の2組である。

II

等比数列  $\{a_n\}$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) は、初項から第 10 項までの和が 93 であり

$$a_1 - a_2 + a_3 - a_4 + a_5 - a_6 + a_7 - a_8 + a_9 - a_{10} = 31$$

を満たす。このとき

(1)  $\{a_n\}$  の公比は  $\frac{A}{B}$ 、初項は  $\frac{CDE}{FG}$  である。

(2) また

$$1 - \frac{a_1}{a_2} + \frac{a_1}{a_3} - \frac{a_1}{a_4} + \frac{a_1}{a_5} - \frac{a_1}{a_6} + \frac{a_1}{a_7} - \frac{a_1}{a_8} + \frac{a_1}{a_9} - \frac{a_1}{a_{10}} = -\boxed{HIJ}$$

である。

III

正の実数  $a$  に対して、 $x$  の方程式

$$2^{x^2+6} = a^{2x-5} \quad \dots\dots ①$$

の解の個数を調べよう。

①は

$$x^2 - \boxed{A} (\log_2 a)x + \boxed{B} \log_2 a + \boxed{C} = 0$$

と変形できる。この2次方程式の判別式を  $D$  とおくと

$$D/4 = (\log_2 a + \boxed{D})(\log_2 a - \boxed{E})$$

となる。したがって

$$\frac{\boxed{E}}{\boxed{G}} < a < \boxed{HI} \quad \text{のとき、解は} \boxed{J} \text{ 個}$$

$$a = \frac{\boxed{E}}{\boxed{G}}, \boxed{HI} \quad \text{のとき、解は} \boxed{K} \text{ 個}$$

$$a < \frac{\boxed{E}}{\boxed{G}}, \boxed{HI} < a \quad \text{のとき、解は} \boxed{L} \text{ 個}$$

である。

また

$$a = \frac{\boxed{E}}{\boxed{G}} \text{ のとき、①の解は} \boxed{MN}$$

であり

$$a = \boxed{HI} \text{ のとき、①の解は} \boxed{O}$$

である。

IV

問1 関数  $f(x)$  の導関数は  $x^2 + x - 1$  である。さらに、 $y = f(x)$  のグラフが直線  $y = x + 1$  と接しているとき、 $f(x)$  を求めよう。

まず  $y = f(x)$  と  $y = x + 1$  の接点の座標を求めよう。接線の傾きが  $\boxed{A}$  であるから

$$x^2 + x - \boxed{B} = 0$$

を解くと、接点の  $x$  座標  $\boxed{CD}$ 、 $\boxed{E}$  が求まる。よって、接点の座標は

$$(\boxed{CD}, \boxed{FG}) \text{ または } (\boxed{E}, \boxed{H})$$

となる。

したがって、求める  $f(x)$  は

$$y = f(x) = \frac{1}{\boxed{I}}x^3 + \frac{1}{\boxed{J}}x^2 - x - \frac{\boxed{K}}{\boxed{L}} \quad \dots\dots ②$$

または

$$y = f(x) = \frac{1}{\boxed{I}}x^3 + \frac{1}{\boxed{J}}x^2 - x - \frac{\boxed{MN}}{\boxed{O}} \quad \dots\dots ③$$

である。

さらに、②のグラフは③のグラフを  $y$  軸方向に平行移動したものであるから、②、③のグラフと2つの直線、 $x = \boxed{CD}$ 、 $x = \boxed{E}$  によって囲まれる部分の面積は  $\frac{\boxed{PQ}}{2}$  である。

問2 関数

$$f(x) = |\sin 2x| \cos x \quad (0 \leq x \leq \pi)$$

は  $x = \frac{\pi}{\boxed{R}}$ ,  $x = \frac{\boxed{S}}{\boxed{T}}$  で極大値  $\frac{1}{\boxed{U}}$  をとり, また,  $x = \frac{\pi}{\boxed{V}}$  のときも極大値  $\boxed{W}$  をとる。

関数  $y = f(x)$  のグラフと  $x$  軸が囲む図形の面積を  $S$  とおくと

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(x) dx = \frac{\boxed{X}}{\boxed{Y}}$$

に注意して

$$S = \boxed{Z}$$

を得る。

解答

I								
問 1					問 2			
A	B	CD	EFGH	IJKLM	NOPQ	RST	UV	WXYZ
6	9	16	2122	21212	3223	264	17	-5-2

II		
AB	CDEFG	HIJ
12	51211	341

III								
ABC	DE	FG	HI	J	K	L	MN	O
256	16	12	64	0	1	2	-1	6

IV																
問 1											問 2					
A	B	CD	E	FG	H	IJ	KL	MNO	PQ	R	ST	U	V	W	XY	Z
1	2	-2	1	-1	2	32	73	136	27	8	78	2	2	0	14	1